マルクス主義の弁証法ーブルジョア革命の運動論

ここでもまた、われわれは、わが**トルドヴィキ的**農民にたいするメンシェヴィキの純自由主義的見地に出くわす。メンシェヴィキはこう言っている。トルドヴィキは、小ブルジョア的空想でみたされている。彼らの土地獲得闘争は、土地の社会化とか、土地の均等な用益とかいうばかげた反動的スローガンをかかけておこなわれている。「したがって」、トルドヴィキの土地獲得闘争は、自由のための闘争を**よわめる**ものであって、トルドヴィキの勝利は、都市にたいする農村の反動的な勝利になるだろう、と。『ゴーロス・ソツィアルーデモクラータ』第 10 ～ 11 号でマルトィノフが述べた所説も、論集『二十世紀初頭のロシアの社会運動』でマルトフが述べた所説も、結局、こういうことに帰着する。

トルドヴィキ的農民をこのように評価することは、さきに述べたブルジョア革命についての所説におとらず、マルクス主義をみっともなく歪曲するものである。もしマルクス主義者が、ナロードニキ的**教義**のヴェールをかぶった、現在の地主的土地所有全体にたいする革命的闘争の**現実**の意義をあきらかにすることができないなら、それこそ、最悪の空論主義である。ナロードニキの教義は、これを社会主義的な教義として評価するばあいには、ほんとうにばかげた、空想的、反動的なものである。メンシェヴィキは、ロシアの農民の生活条件のもとでは、農民のブルジョア民主主義的革命性が、イデオロギー的には土地均分の万能薬的な効果を「信仰」するという形をとって現れるよりほかはなかったことを見ないで、驚くべき盲目ぶりと、マルクス主義の弁証法の無理解とをあらわしているのである。「経済学的見地からみれば形式的にまちがいであることも、世界史の見地からみればやはり正しいことがありうる」〔第 1 巻、466 ページ〕。エンゲルスのこの言葉を、わがメンシェヴィキは、けっして理解できなかった。彼らは、ナロードニキ的**教義のまちがい**を暴露しながら、ペダントとして、これらのえせ社会主義的教義によって表現されている、現在のブルジョア革命における現在の闘争の**真理**には、目をつぶったのである。

ところで、われわれはこう言おう。トルドヴィキ、エス・エル、エヌ・エス一派のえせ社会主義的教義にたいしては断固として闘争しながらも、**ブルジョア**革命におけるプロレタリアートと革命的農民との**同盟**を率直に、確固としてみとめる、と。この革命の勝利は、土地均分の万能薬的な効果を説く教義を煙のように吹きとばすだろう。しかし、農民大衆は、こんにちの闘争においては、この教義によって、農奴制のありとあらゆる残存物をロシアから清掃する自分たちの歴史的行動の広さ、強さ、勇敢さ、熱情、誠意、不敗性を表現しているのである。

ブルジョアジーは左翼化しつつある、トルドヴィキの空想的社会主義をぶっつぶせ、ブルジョアジーへの支持万歳、――と、メンシェヴィキは論じている。ブルジョアジーは左翼化しつつある、したがって、ロシアの革命の火薬庫には新しい火薬が蓄積されつつある、――とわれわれは言おう。もし、きょう、クレストーヴニコフらが「ロシアは病んでいる」と言うなら、それは、あすは、民主主義的農民をうしろに従える社会主義的プロレタリアートが立ちあらわれて、――［われわれが、病めるロシアをなおらせよう！」と言うだろう、ということを意味するのである。

第 15 巻 P390~391『ブルジョアジーの「左翼化」とプロレタリアートの任務』

『プロレタリー』第 44 号、1909 年 4 月 8（21）日

コメント

「経済学的見地からみれば形式的にまちがいであることも、世界史の見地からみればやはり正しいことがありうる」

トルドヴィキの理論は誤っているが、農民大衆は、この教義によって、農奴制のありとあらゆる残存物をロシアから清掃する自分たちの歴史的行動の広さ、強さ、勇敢さ、熱情、誠意、不敗性を表現している。だから、プロレタリアートがブルジョア革命を勝利させるために同盟すべき相手は、左翼化しつつあるブルジョアジーではなく革命的農民なのである。